

2023年12月31日 No.3700

先週の講壇から

「神は愛だから」

ヨハネの手紙Ⅰ 第4章7節～12節

聖句「愛する者たち、互いに愛し合ひましょう。愛は神から出るもので、愛する者は皆、神から生まれ、神を知っているからです。」(4:7)

1. 《育ての親》 私の友人M牧師は養育拒否児童でした。自分の本当の出身地も誕生日も知りません。厄介者扱いされて、親戚の家を盥回しにされたため、小学生の頃には盗みを働き、施設に入れられました。けれども、H学園の寮母をされていた方が引き取り、面倒を見てくださったのです。何度も義母の愛情を試して悪さをして、泣きながら彼を抱き締め、育て上げてくれたのでした。
2. 《信仰と愛》 信仰とは、相手を自分の思い通りにすることではありません。それはマインドコントロールです。昔から「聖書に書いてあるから」と言って、聖書は根拠付けに利用されています。神を信じることは観念的に捉えられがちですが、人を信じるということの延長線上にあります。具体的なことなのです。娘が自分と同じような「信仰を持ってくれない」と悩む母親がいました。けれども、彼女は娘を「愛している」と言いながら、少しも信頼していなかったのです。幼い子どもたちの「おままごと」では、近年、ペット役を望む子が増えています。口うるさく威張り散らす母親、自分の家庭を放棄して雲隠れする父親、叱られるばかりで誰も演じたがらない子ども…。愛と信頼が失われた家庭です。
3. 《はぐくみ》 M牧師の育ての親は血の繋がらない赤の他人でしたが、どこまでも彼を信頼して裏切らないことで、本当のお母さんになったのです。「育てる／育てられる」ことは愛と信頼によるのです。枝葉末節に目を奪われてはなりません。枝葉は季節と共に落ちてしまうのです。大切なのは幹であり根です。愛と信頼は、誰かと一緒に育んで行くものです。イエスさまが、誰かの手を借りなければ生きていけぬ赤ん坊として、世に来られたところにクリスマスの本質があります。神さまは私たちの中に愛の種を蒔かれたのです。育まれていたのは、私たち人間の側だったのかも知れません。どうして私たちは、2千年も昔の、会ったこともない赤ん坊の誕生祝いをしているのでしょうか。そこに、神さまから私たちにに向けて注がれた愛があるからです。神は私たちを愛して居られるのです。

朝日研一朗牧師